

各位

全3ページ

登録速報(2022-096)

2022年 3月 9日

クミアイ化学工業株式会社

企画普及部普及課

## 登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2022年3月9日

## 記

### 1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第24133号

名称：ゼクサロンパディート箱粒剤

### 2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙【変更後】のとおりとする。

- ・作物名「稲(箱育苗)」の使用方法「育苗箱の上から均一に散布する。」に使用量「高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100g)」を追加する。

### 3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第8項中、3)を変更、4)を追加し、現行4)以降を繰り下げ、別紙【変更後】のとおりとする。

#### 【変更前】

- 3) 育苗箱の土壌表面が乾燥していて苗を田植え機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落としした後軽く灌水すること。

#### 【変更後】

- 3) 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落としした後軽く灌水すること。

**【追加事項】**

- 4) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾糶として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。

別紙

7. 適用病害虫の範囲及び使用方法

【変更後】(変更する作物のみ抜粋)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマガ、ロコハイ イネミス、ゾウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ イネト、オイムシ フタホ、コヤガ イネトムシ	高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50~100g)	は種時(覆土前) ~移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。
		育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前		育苗箱の床土 又は覆土に 均一に混和する。

シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメピリムを含む農薬の総使用回数
1回	1回

8. 使用上の注意事項

【変更後】

- 1) 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用すること。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないこと。
- 2) 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布すること。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とすこと。
- 3) 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落としした後軽く灌水すること。
- 4) 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 5) 軟弱徒長苗、老化苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 6) 側条施用をする場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用すること。
- 7) 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので代かきは丁寧におこない、移植後田面が露出しないように注意すること。
- 8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上